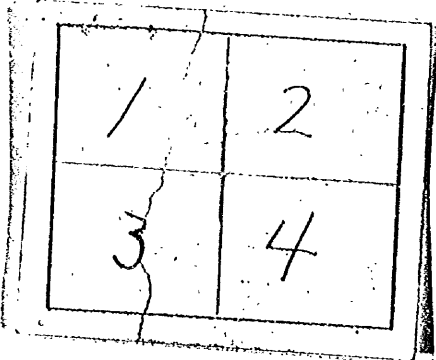


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1551 1852

1551 1852

3

部隊原簿

部 隊 原 簿

部隊原簿

部隊原簿

第一三九師

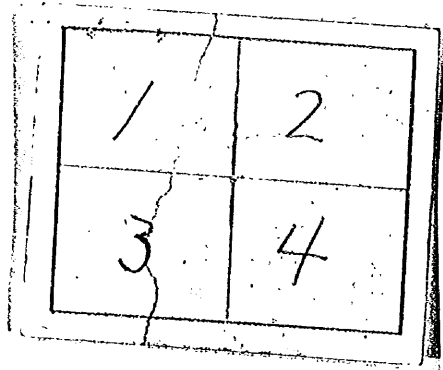
# 部隊原簿

第一三九師團

1/A

# 分割撮影ターゲット

分割した  
部分の  
撮影順序



分割撮影  
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

1400 1400

第一方面軍軍直 部隊名 第一三九師團司令部

通稱 號不屈三七三〇一部隊

郵便所名

全設概要		轉入	轉出	員人制編	240	除別	隊長名	開人	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ返の變動	入ソ人員	滿洲残留	收
<p>二〇、七、二五 師團は吉林省教化に於て編成を開始し</p> <p>八、一 編成完結 編成完結後各部隊毎に各々駐屯地附近の警備に任せしむ</p> <p>司令 張化 飛行場内にて</p> <p>八 ソ軍攻撃し来たるを以て師團は現駐屯地に於て極力戦力の増強を以てより速に増強し得る如く待機せしむるも交際なきまま終戦となれり</p> <p>八、二二 教化にて武装解除</p> <p>八、二五 將校下士官兵に区分され准士官以上は沙河沿に送られ下士官、兵は教化飛行場北方二軒河沿にて聯合生活を實施す</p> <p>八、二九 沙河沿迄</p> <p>九、一 見習士官二〇名を除く將校の内沙河沿の主力は山田少佐以下沙河沿收容所に中隊以上は同地二軒河沿兵舎に收容さる</p> <p>九、二二 沙河沿にて作業二三九大隊編成</p> <p>一〇、一 沙河沿</p> <p>一〇、一四 按河沿</p> <p>一一、一四 タイセツ下地区へ收容さる</p>						<p>副官 師團長 中將 富永 泰次 高級副官 少佐 山田勇太郎 副官 山田 泰吉</p>	<p>中佐 松岡 義一 參謀少佐 永田 康</p>	<p>代理 大尉 石田 來治</p>	<p>主中佐 村田 壽男 主大尉 川並 猪七</p>	<p>醫大佐 明渡 汎治</p>	<p>代理 獸大尉 豊田 賢次</p>				

240										員人制編
隊	部	部	部	部	部	部	部	部	部	別
代理 大尉 豊田 賢次	大佐 明渡 侃治	主中佐 村田 義男 主大尉 川並 猪七	代理 大尉 石田 來治	中佐 松岡 義一 參謀少佐 永田 康					師團長 中將 富永 泰次 高級副官 少佐 山田 勇太郎 副官 長谷川 忠雄	隊長名 ( )内は先代を示す
										開人 戦時 駐屯地 平時 戦時
										戦闘間の状況及損耗
										終戦後の人員變動
										作業大隊より 入「ソ」迄の變動
										入「ソ」人員 除別計
										滿洲殘留
										收容所 タイセツトバルナ ウル
										人員所 死亡
										滿洲ソ領 より 計
										歸還人員 者 数 状況不明

部隊名 第一三九師團司令部

通稱 號不 屈三七三〇一部隊

郵便所名



八、一  
...

八、二  
...

八、三  
...

八、四  
...

八、五  
...

九、一  
...

六、二  
...

一〇、一  
...

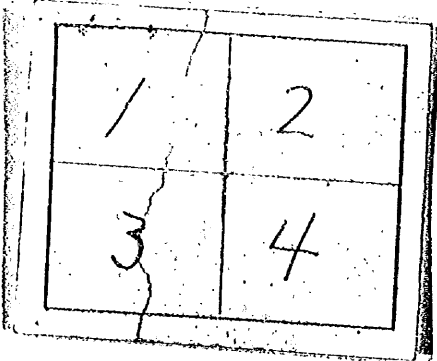
一〇、二  
...

...

部 信 通	部 務 法	部 醫 獸	部 醫 軍	部 理 經	部 器 兵	部 謀 參	部 理 管	部 官 副
		代理 獸大尉 豊田 登次	醫大佐 明渡 泥治	主中佐 村田 壽男 主大尉 川並 猪七	代理 大尉 石田 泰治	中佐 松岡 義一 參謀少佐 永田 康		高橋 富永 泰次 今住 山田 大輔



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 聯	別 隊
少尉 齋場	少尉 岡田 行三	中尉 中村 新一 少尉 常木 朝次 少尉 藤田 春夫 少尉 山本 隆夫	中尉 吉岡 新一	大佐 大澤 侃次郎 少佐 中野 邦雄	隊長 名 (内は先代を示す)
		140			開人 戦時 人員
					駐屯地 平時 戦時
					戦闘間の状況及損耗
		二〇、八、二三 蛟河にて行動開始成虎隊 八、一五 停戦命令下る 八、一七 成虎隊より蛟河列車通過同日ソ 軍進駐武裝解除を受く			終戦後の人員變動
		八、一九 蛟河より教化收容所に移動 八、三一 沙河路收容約四〇名 蛟河に於ける召集解除に應じたもの 約一〇〇名			作業大隊より 入ソ迄の變動
					入ソ人員 隊別計
					滿洲残留
					收容所名
					所人 死亡
					滿洲ソソ よりより 人員計
					状況不明 者数

部隊名 歩兵第三八〇聯隊

通稱號 不屈二七三〇二部隊

郵便所名

八、三〇  
...

八、二八  
...

八、九  
...

八、一四  
...

八、二五  
...

八、二六  
...

八、二九  
...

八、三一  
...

九、一  
...

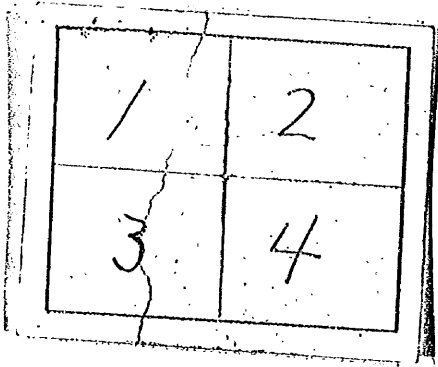
...

3490

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊
	少尉 斎場	少尉 岡田 行三	中尉 中村 新一 少尉 常木 朝次 少尉 斎場 少尉 岡田 行三	中尉 吉岡 新一	
			140		
			二〇、八、一三 袋河にて行動開始成虎嶽 に向 八、一五 停戦命令下る 八、一七 成虎嶽より袋河列車輸送同日 軍運隊兵器解除を多く		
			八、一九 袋河より教化收容所に移動 八、三一 袋河收容所約四〇名 袋河に於ける兵器解除に應じたもの 約一〇〇名		

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊
	少尉 萱場	少尉 岡田 行三	中尉 中村 新一 少尉 常木 朝次 少尉 森本 重之助 少尉 森本 春雄	中尉 吉岡 新一	中尉 吉岡 新一
			140		
			二〇、八、一三 欽河にて行動開始及成隊 に向 八、一五 停戦命令下る 八、一七 成隊後より欽河列車輸送開始 軍進駐式被解除を受く		
			八、一九 欽河より善化收容所に移動 八、三一 沙河渡收容約四〇名 收容所に於ける召集解除に應じたもの 約一〇〇名		

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



1463 1464

第一方面軍軍直  
第二三九師團  
部隊名 歩兵第三三八〇聯隊

通稱 號 不屈三七三〇二部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編		隊別	隊長名	開入	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソシ迄の變動	入ソシ人員	滿洲残留	
六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第	別隊	隊長名	時員	平	時	戰	時	時	時	隊別	計	
<p>一、一、三〇 タンボフ湖ラード放牧所に 入所約六〇名同隊關係者 の死亡者左の如し ラード第二八八號 二〇、一、三〇 約七〇名 二〇、一、一八 約七〇名 エラフカ第九七號 二二、一、八、二七 約六〇名 二二、一、〇、一四 約六〇名 聯隊將校にして入ソせるもの 不明沙河沿道行跡し其の 後不明となりたるものあり 聯隊將校約二〇名を除き 大塚隊隊長はエラフカ放牧 に入るのため編成に於 て、永室大尉吉岡中尉は聯 隊將校團の長となる即ち編 團長(木下大佐)各分隊長 八、二八、 編成木下大隊の入ソ経路は 牧河―教化―牡丹江―松花 河―ハハロフス―クワイフ シニツラゴダ中隊少尉二名 准尉一名見習士官五名隊長 者美津河沿―教化と異動 理由不明聯隊將校の数を多 理由不明聯隊將校の数を多 校卒業の幹線生が見習士官 となり編入せる爲なり</p>																
			大尉 西浦 謙一		第一歩兵砲小隊	少尉 宮崎 光雄 (内は先代を示す)					王松旬	八、一〇 間島方面行動中敵砲撃に遭 八、一七 牧河に復歸住民の警備 八、一九 下士官以下九七名解放 八、二〇 牧河にて武装解除	八、二〇 教化(移動) 一〇、一五 牧河(移動)	二、三 入ソ		
	少尉 村上 悦次	守野田新次									管轄と同時に牧河に集結					

部隊名 歩兵第三八〇聯隊

通稱 號不屆三七三〇二部隊

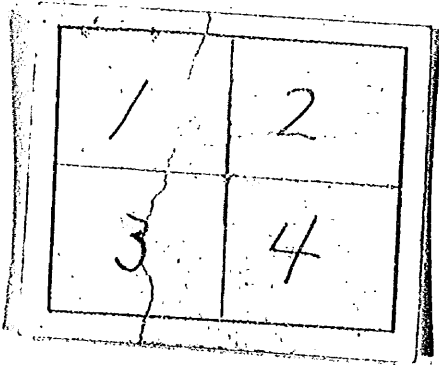
郵便所名

編制人員				別	隊	
第六	第五	第四	第二	第一	隊	
	少尉 村上悦次	中尉 田所 誠二	大尉 西浦 謹一	(内は先代を示す) 少尉 宮崎 光雄	隊長名	
		150			開入 戦時 人員	
			王松 旬		駐屯地	
				戦闘間の状況及損耗 八、一〇 間島方面行動中敵機襲撃に遭 八、一七 蛟河に復讐住民の脅威 八、一九 下士官以下九七名解放 八、二〇 蛟河にて武装解除 八、二〇 蛟河にて武装解除 八、二〇 蛟河にて武装解除		終戦後の人員變動 八、二〇 蛟河へ移動 八、二〇 蛟河へ移動
					作業大隊より 入「ソ」迄の變動 二、三 入「ソ」	
					入「ソ」人員 隊別計	
					滿洲残留	
					收容所名	
					收容所	
					死亡	
					滿洲より領	
					歸還人員計	
					状況不明者数	





# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1468  
1467  
1468

第一方面軍直轄 第一三九師團 部隊名 步兵第三八〇聯隊 通稱號 不屈二七三〇二部隊 郵便所名

全般概要					全	所
轉入					轉	入
十九年以降					十九	年以降
轉出					轉	出
十九年以降					十九	年以降
員人編					員	人編
第	隊中八第	隊中七第	部本隊六三第	隊小砲兵歩二第	別	隊
少	少	少	大尉 永室 基住		隊長名	(内は先代を示す)
尉	尉	尉			戦時	戦時
長	長	長			員	員
190	120				平時	平時
			嶺 虎 威		駐	屯地
					戦	時
			停戦と同時に敵河に集結		戦闘間の状況及損耗	
					終戦後の人員變動	
					作業大隊より	
					入ソ迄の變動	
					除別	入ソ人員
					計	
					満洲残留	
					收	収
					空	空
					名	名

隊名 歩兵第三八〇聯隊 通稱號 不屈三七三〇二部隊 郵便所名

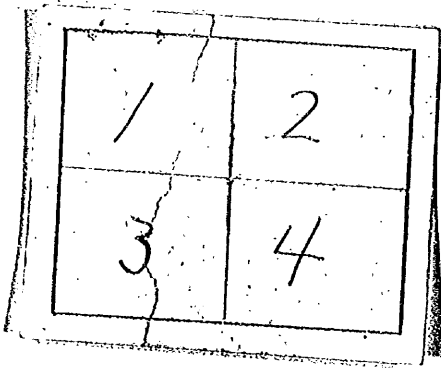
第	隊中八第	隊中七第	部本隊六三第	隊小砲兵歩二第	別隊
少尉 登	少尉 登	少尉 登	大尉 永室 基住		隊長名 (内は先代を示す)
	190	120			戦員 戦時
			嶺 虎 威		駐屯地
			作戦と同時に戦河に集結		戦闘間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より入ソの變動
					隊別計
					入ソ人員
					満洲残留
					收容所名
					所人
					死亡
					満洲より領
					計
					者数
					状況不明

第三機關銃中隊	第九中隊	第八中隊	第七中隊	第三大隊本部	第二步兵砲小隊
少尉 吉繁	少尉 五	少尉 泰南	少尉 銀尾	大尉 永室 基任	
		120	120		
				中尉 虎威	
					管轄と同時に蛟河に集結



第三關銳中隊	第九中隊	第八中隊	第七中隊	第三大隊本部	第二步兵砲隊
少尉 吉野	少尉 金	少尉 高	少尉 長尾	大尉 永室 甚住	
		120	120		
				大尉 威 威	
					本隊と同時に野河に集結

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1469  
1470  
1471  
1472

第一方面軍直轄  
第一三九師團  
部隊名 步兵第三八〇聯隊

通稱號 不屈三七三〇二部隊

郵便所名

全般概要					轉入	轉出	員人編		
十九年以降					十九年以降				
隊小馬乘					隊中砲兵歩		隊中通信		隊小砲兵歩三第
							少將 務國		隊長名 ( )内は先代を示す
									開人 戦時 員
									駐屯地
									戦時
									戰鬥間の状況及損耗
									終戦後の人員變動
									作業大隊より 入「ソ」迄の變動
									入「ソ」人員
									隊別計
									滿洲殘留
									收
									放
									名

部隊名 歩兵第三八〇聯隊

通稱 號 不屈三七三〇二部隊

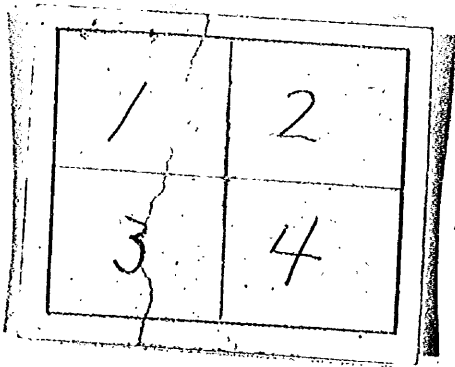
郵便所名

別	隊長名 (内は先代を示す)	開人 戦時	駐屯地	戦時	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ連の變動	入ソ連人員	満洲残留	收容所		歸還人員	状況不明 者数
										收容所名	所人		
第三歩兵砲小队													
通信中队	少将 藤岡												
歩兵砲中队													
乘馬小队													



	隊 小 馬 乘	隊 中 砲 兵 步	隊 中 信 通	隊 小 砲 兵 步 三 第
			少 隊 務 員	

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1474  
1475  
1476

第一方面軍直轄 第一三九師團 部隊名 歩兵第三八一聯隊 通稱號 不屈三七三〇三部隊 郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人編	別除	隊長名	開入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ連の變動	入ソ連人員	滿洲殘留	收	
<p>七、三一 編成完結（吉林省秋梨溝にて）開戦同時教化秋梨溝に在りて行はる。</p> <p>八、一四 陣地構築のため松遼湖北附近の陣地配備（第一、第二大隊）第三大隊は秋梨溝に在りて待機。</p> <p>八、一五 同方面に進展せるソ連機教化部隊を松遼湖北附近にて殲滅する目的を以て部隊主力を教化附近に集結し其の一部を先遣せるも停戦に至る、戦中は隊行はず其の行動のみにて止まりたり部隊は武装解除前に教化飛行場に集結せるも武装解除を待たずして教化とソ連兵と分れ其の状況不明當時部隊は教化東方約一五キロの秋梨溝に在り。</p> <p>二〇、八、四 教化西方約二〇キロの秋梨溝に兵若干と大隊本部要員四名乃至五名を伴ひ對戦準備陣地偵察のため先行しありたるに依り直ちに引返せり當時部隊主力は教化に集結し中隊第三大隊は後進中隊中隊となり其の後をかくれて教化に集結二〇キロはソ連進軍を待てり。</p>		十九年以降	十九年以降	3409	別除	<p>大・佐（片山啓吉） 副中尉 關根 軍曹 池田 軍曹 龍</p>	開入	駐屯地	<p>約 100名</p> <p>教化</p> <p>教化</p>	<p>開戦と同時に教化より秋梨溝に移動陣地配 置近接の攻撃を受け半戦なし 八、一七 終戦 八、二二 教化にて武装解除</p>	<p>終戦後五名逃亡 解系一名召集解除 八、三〇頃 徒歩にて沙河沿に移動教化中 隊のみ教化にてソ連司令部に移送され爾後 の行動不明</p>	<p>九、二沙河沿にて約二〇名 は作業二四〇大隊編入 其他作業二三七、二三九、 二五九大隊に夫々分隊編入 し入ソ連</p>	入ソ連人員	滿洲殘留	<p>クラ 容所 二 大隊 一 大隊 九 大隊 三 大隊</p> <p>ウラ 容所 一 大隊 一 大隊 九 大隊</p> <p>パロ 容所 二 大隊 一 大隊 三 大隊</p> <p>バル 容所 二 大隊 一 大隊 三 大隊</p>



隊名 歩兵第三八一聯隊

通稱 號 不屈三七三〇三部隊

郵便所名

第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 工	部 本 隊 聯	別 隊
	大 隊 高 野 三 郎	中 尉 武 智	大 隊 山 口	大 佐 片 山 啓 吉 副 中 尉 關 根 軍 曹 池 田 軍 曹 龍	隊 長 名 ( ) 内 は 先 代 を 示 す
		約 100 名			開 入 戦 時 員
		教 化			駐 屯 地 平 時
		教 化 梨 溝			戦 時
		因 隊 と 同 時 に 教 化 よ り 秋 葉 藩 に 移 動 陣 地 配 置 近 接 敵 の 攻 撃 を 受 け ず 戦 斗 な し 八、二七 終 戦 八、二二 教 化 に て 武 装 解 除			戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗
		終 戦 後 五 名 逃 亡 終 戦 一 名 召 集 解 除 八、三〇 頃 徒 歩 に て 妙 河 宮 に 移 動 武 智 中 尉 の み 教 化 に て 軍 司 令 部 に 移 送 さ れ 爾 後 の 行 動 不 明			終 戦 後 の 人 員 變 動
		九、二 妙 河 宮 に て 約 二〇 名 は 作 業 二 五〇 大 隊 編 入 其 他 作 業 二 三 七、二 三 九、二 五 九 大 隊 に 夫 々 分 散 編 入 し 入 所 した			作 業 大 隊 よ り 入 所 返 の 變 動
					入 所 人 員 隊 別 計
					滿 洲 殘 留
		バ ル ナ ウ ル 第 二 收 容 所 ス ウ エ ド ロ フ ス ク 第 四 三 五 收 容 所	パ ロ ナ ウ ル ロ フ ス ト フ カ	ウ ラ ジ オ ス ト ッ ク 二 一 一 大 隊 二 〇 九 大 隊 二 三 九 大 隊	收 容 所 名 ク ラ ス キ 收 容 所 二 三 〇 大 隊 三 八 一 聯 隊
			約 1000 名	100 名	員 所 人 395 名
					死 亡
					滿 洲 領 員 計
					状 況 不 明 者 数

二〇、八、四  
 教化四万約二〇軒の新開墾  
 に兵若干と大隊本部要員四  
 名乃至五名を伴ひ對馬津防  
 線陣地偵察のため先行しあ  
 りたるに依り既に引返せ  
 り當時部隊主力は教化に集  
 結轉進中第三大隊は残務整  
 理中終戦となり其の後をく  
 れて教化に集結二〇にはソ  
 軍遺棄あり

八、一四  
 陣地構築のため総泊湖西北  
 附近の陣地(第一、第二、第  
 三大隊)第三大隊は秋梨津  
 渡留隊

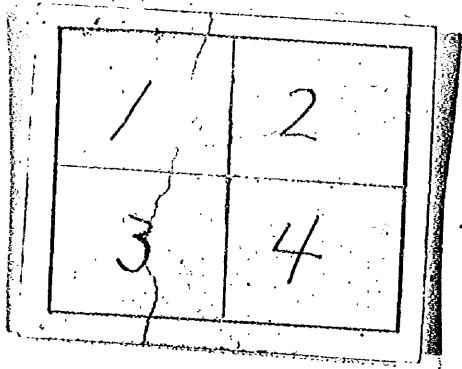
八、一五  
 陣地方面に越境せるソ軍機  
 械化部隊を総泊湖附近にて  
 撃退する目的を以て部隊  
 主力を教化附近に集結し其  
 の一部を先遣せるも停戦に  
 至る、残部は急行はす大  
 の行動のみにて止まりたり  
 部隊は武装解除前に教化飛  
 行場を築設せるも武装解除  
 を待たずして將校と下士官  
 兵と分れ其の後状況不明當  
 時部隊は教化東方約一五軒  
 の秋梨津にあり

3409

聯隊本部	大工隊本部	第一中隊	第二中隊	第三中隊	第一機關銃中隊
大・佐 月形正吉 副中尉 根根 軍曹 池田 軍曹 龍	大尉 山ノ	中尉 武智	大尉 高野三郎		少尉 片山
		約 100名			
教化		教化			
秋梨		秋梨			
<p>開戦と同時に教化より秋梨津に移動陣地配        近接の攻撃を受け予備戦なし        八、一七 終戦        八、二二 教化にて武装解除</p>					
<p>終戦後五名逃亡 餘部一名召集解除        八、三〇頃 徒歩にて沙河沿に移動武智中        隊のみ教化にてソ軍司令部に移送され爾後        の行動不明</p>					
<p>九、二 沙河沿にて約二〇名        は作樂二四〇大隊編入        其餘作樂二二七、二二九、        二五九大隊に夫々分隊編入        し入ソヤ</p>					

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大工	部本隊聯
少尉 片山		大尉 高野	中尉 武智	大尉 山ノ	六・佐 片山啓吉 副中尉 関根 軍曹 菅田 軍曹 藤田
			約 100名		
			化 教		
			化 教 溝 梨 秋		
			因襲と同時に教化より秋梨溝に移動陣地配 置直接の攻撃を受けず戦半なし 八、二七 終戦 八、二二 教化にて武装解除		
			終戦後五名逃亡 解凍一名召集解除 八、三〇頃 徒歩にて河沿に移動軍中 隊のみ教化にて軍司令部に移送され爾後 の行動不明		
			九、二 沙河沿にて約二〇名 は作樂二四〇大隊編入 其他作樂二三七、二三九、 二五九大隊に夫々分隊編入 し入る。		
			バルナウル 第二收容所 スウエドロフスク 第四三五收容所	クラスキ收容所 二三〇大隊 三八一聯隊 ウラジオストク 二一一大隊 二〇九大隊 二三九大隊 パロナウル ロフストフカ	
				約1000名	100名
					395名

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1477  
1478  
1479  
1480

第一方面軍軍直  
第一三九師團  
部隊名 歩兵第三八一聯隊  
通稱號 不屈三七三〇三部隊  
郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名	開入	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計	滿洲殘留
八、二二 教化にて武装解除部隊公認 約一〇〇名 沙河沿に收容 將校、下士官、兵に分隊作 業大隊編成 第二三八大隊 約一〇〇〇名 歩兵三八一聯隊 約八〇〇名 一三九師團通信隊 二二七大隊 第二三九大隊、歩兵三八一 聯隊 約一四〇〇名 第一三九師團關係者一名 支隊中尉以下約一〇〇〇名 作業大隊は教化施設に際し 此の同死亡者多し(約半數) クラスキ收容所へ 九、三 沙河沿に收容せられ收容さ る 一〇、一六 ウラジオに出發隊除人員の 大部分は左海難者にして 相當の難除者あるらし		十九年以降	十九年以降		第一歩兵砲小隊	進 彦彦 教	時	溝 梨 秋	戰斗せず 八、二二 教化にて武装解除		入ソ人員	19名	滿洲殘留
第二二大隊					第二二大隊	大尉 森田 稔 副官 藤田 稔	26	溝 梨 秋					
第四中隊					第四中隊	中尉 向井 力	180~190	溝 梨 秋					
第五中隊					第五中隊	中尉 杉野 裕	180						
第六中隊					第六中隊								

名步兵第三八一聯隊

通稱 號 不屈三七三〇三部隊

郵便所名

六第	隊中五第	隊中	部本隊大二第	隊小砲兵多一第	別隊	隊長名 (内は先代を示す) 佐野 茂彦 教	大尉 森田 稔 副官 藤田 稔	中尉 向井 力	少尉 杉中										
		180	180~190	25		戦闘間 の状況 及損耗													
						駐屯地													
						戦闘間 の状況 及損耗													
						終戦後 の人員 變動													
						作業大隊 より入 ソノ 變動													
						入ソノ 人員													
						除別計													
						19名													
						滿洲 残留													
						收容所名													
						收容所 人員													
						死亡													
						滿洲 より ソノ 領 計													
						歸還 人員													
						者 數													

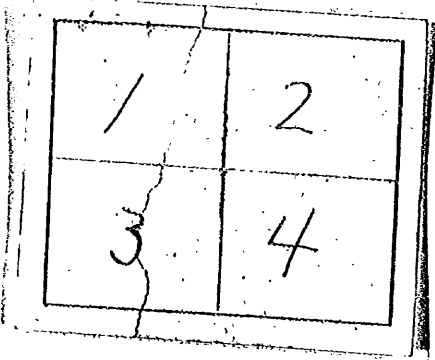
第一〇一六  
 ウラジボに出現部隊人員の  
 大部分は左列に在りしに  
 相當の離隊者ありしに  
 九、三  
 沙洲に離隊せられたる  
 第一〇一六  
 第一〇一七  
 第一〇一八  
 第一〇一九  
 第一〇二〇  
 第一〇二一  
 第一〇二二  
 第一〇二三  
 第一〇二四  
 第一〇二五  
 第一〇二六  
 第一〇二七  
 第一〇二八  
 第一〇二九  
 第一〇三〇  
 第一〇三一  
 第一〇三二  
 第一〇三三  
 第一〇三四  
 第一〇三五  
 第一〇三六  
 第一〇三七  
 第一〇三八  
 第一〇三九  
 第一〇四〇  
 第一〇四一  
 第一〇四二  
 第一〇四三  
 第一〇四四  
 第一〇四五  
 第一〇四六  
 第一〇四七  
 第一〇四八  
 第一〇四九  
 第一〇五〇  
 第一〇五一  
 第一〇五二  
 第一〇五三  
 第一〇五四  
 第一〇五五  
 第一〇五六  
 第一〇五七  
 第一〇五八  
 第一〇五九  
 第一〇六〇  
 第一〇六一  
 第一〇六二  
 第一〇六三  
 第一〇六四  
 第一〇六五  
 第一〇六六  
 第一〇六七  
 第一〇六八  
 第一〇六九  
 第一〇七〇  
 第一〇七一  
 第一〇七二  
 第一〇七三  
 第一〇七四  
 第一〇七五  
 第一〇七六  
 第一〇七七  
 第一〇七八  
 第一〇七九  
 第一〇八〇  
 第一〇八一  
 第一〇八二  
 第一〇八三  
 第一〇八四  
 第一〇八五  
 第一〇八六  
 第一〇八七  
 第一〇八八  
 第一〇八九  
 第一〇九〇  
 第一〇九一  
 第一〇九二  
 第一〇九三  
 第一〇九四  
 第一〇九五  
 第一〇九六  
 第一〇九七  
 第一〇九八  
 第一〇九九  
 第一一〇〇

隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第
少尉 福地 辰		少尉 花澤	中尉 向井 力	大尉 森田 隆 副官 藤岡 泰	
		180	180~190	25	
				溝 梨 秋	
				溝 梨 秋	
				八二二 番号にて詳察	

隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第
少尉 福地 辰		少尉 杉浦	中尉 向井 力	大尉 森田 務 副官 藤島 務	
		180	150~190	25	
				溝 梨 秋	
				溝 梨 秋	
				八二三 教化にて武装解除	
				19名	



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1481  
1482  
1483  
1484

第一方面軍直轄 第一三九師團 部隊名 步兵第三八一聯隊

通稱號 不屈三七三〇三部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人組織	別隊	隊長名	人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	入ソ人員	滿洲残留	收
		十九年以降	十九年以降			(内は先代を示す)	時員	平				隊別計		
九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第	別隊	六隊 王隊長 新	150							
中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次	中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次	中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次	中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次	中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次										
150	135	150												
大西中隊長 花塚吉次 一、中隊長 花塚吉次 二、中隊長 花塚吉次 三、中隊長 花塚吉次 四、中隊長 花塚吉次 五、中隊長 花塚吉次														

部隊名 歩兵第三八一聯隊

通稱 號 不屈三七三〇三部隊

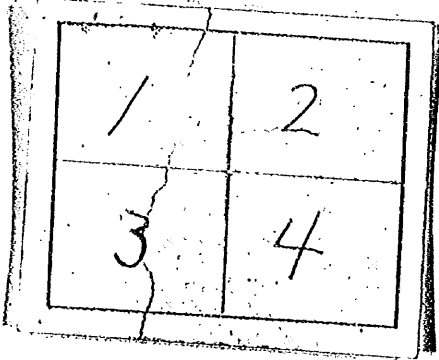
郵便所名

員人編組		別 隊		隊 長 名		戰 闘 間 の 状 況 及 損 耗		終 戦 後 の 人 員 變 動		作 業 大 隊 よ り 入 ソ 込 の 變 動		入 ソ 込 人 員		滿 洲 殘 留		收 容 所 名		所 入		死 亡		歸 還 人 員		狀 況 不 明		
九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 步 二 第	( ) 内 は 先 代 を 示 す	時 員	戰 闘 間 の 状 況 及 損 耗	終 戦 後 の 人 員 變 動	作 業 大 隊 よ り 入 ソ 込 の 變 動	隊 別 計	入 ソ 込 人 員	滿 洲 殘 留	收 容 所 名	所 入	死 亡	歸 還 人 員	狀 況 不 明									
	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>大 塚 三 郎 一 中 隊長</p>	130																				
	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>大 塚 三 郎 一 中 隊長</p>	135																				
	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>大 塚 三 郎 一 中 隊長</p>	150																				
	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>中隊長 松原 善次 一 中隊長 松原 善次 二 中隊長 松原 善次 三 中隊長 松原 善次 四 中隊長 松原 善次 五 中隊長 松原 善次 六 中隊長 松原 善次 七 中隊長 松原 善次 八 中隊長 松原 善次 九 中隊長 松原 善次</p>	<p>大 塚 三 郎 一 中 隊長</p>																					

隊中銃關機三第	隊中元第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第
	<p>中隊長 於保吉次            一、中隊長 於保吉次            二、中隊長 於保吉次            三、中隊長 於保吉次            四、中隊長 於保吉次</p>	<p>中隊長 於保吉次            一、中隊長 於保吉次            二、中隊長 於保吉次            三、中隊長 於保吉次            四、中隊長 於保吉次</p>	<p>中隊長 於保吉次            一、中隊長 於保吉次            二、中隊長 於保吉次            三、中隊長 於保吉次            四、中隊長 於保吉次</p>	<p>中隊長 於保吉次            一、中隊長 於保吉次            二、中隊長 於保吉次            三、中隊長 於保吉次            四、中隊長 於保吉次</p>	
	150	135	150		
<p>中隊長 於保吉次            一、中隊長 於保吉次            二、中隊長 於保吉次            三、中隊長 於保吉次            四、中隊長 於保吉次</p>					

隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第
	<p>中隊長 於保吉次          一 少隊長 於保吉次          二 大田 重          三 大田 重</p>	<p>一 少隊長 於保吉次          二 大田 重          三 大田 重</p>	<p>一 少隊長 於保吉次          二 大田 重          三 大田 重</p>	<p>大塚 三郎          三郎 三郎</p>	
	130	135	150		
	<p>大田 重          中隊長 於保吉次          一 少隊長 於保吉次          二 大田 重          三 大田 重</p>				

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1485  
1486  
1487  
1488

第一方面軍軍直  
第一三九師團

部隊名 歩兵第三八一聯隊

通稱號 不屈三七三〇三部隊

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		員人編		別隊	
十九年以降		十九年以降							
隊小馬乘		隊中砲兵歩		隊中通信		隊小砲兵歩三第		別隊	
少尉 大塚 重泰 曹長 伊藤 伍長 清水		少尉 谷山 一男		軍曹 北原 曹長 赤田				( )内は先代を示す	
16								戦時人員	
溝 梨 秋								駐屯地	
化 敦								戦時人員	
八、一四 秋梨溝より敦化に移動 戦時より敦化に移動 八、二二 敦化にて武器解除								戦闘間の状況及損耗	
敦化行務に依り、隊員一名								終戦後の人員變動	
九、上旬、作業大隊編入 (編四一三九部隊主力を合 流) 小隊長のみ分離され作業二 三九大隊長となり入ッテ								作業大隊より 入ッテの變動	
								隊別 計	
								入ッテ人員	
								満洲残留	

隊名 歩兵第三八一聯隊

通稱號 不屈三七三〇三部隊

郵便所名

別隊	隊長名	開人	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ人員	満洲残留	收容所	歸還人員	状況不明者数
第三歩兵小隊	少尉 大塚 重泰 曹長 伊藤 清 伍長 清水	16	秋梨 溝 敦 化	八、一四 秋梨溝より敦化に移動 八、二一 敦化にて武器整頓	敦化飛行場に收容 隊員一名	九、上旬 作業大隊編入 (編入一三九聯隊主力と合流) 小隊長のみ分離され作業二 三九大隊長となり入ソナ				
第三歩兵小隊	少尉 谷山 一男									
通信中隊	軍曹 北原 千所 永田									



隊小砲兵歩三第	隊中信通	隊中砲兵歩	隊小馬乘
	軍曹 北原 少尉 永田	少尉 谷山 一男	少尉 大塚 重泰 曹長 伊藤 伍長 清水
16.			
			秋 梨 溝
			敦 化
			八、一四 秋梨溝より敦化に移助 八、二一 敦化にて武装解除
			敦化飛行場に收容 陸隊一名
			九、上旬、作業大隊編入 (編入一三九聯隊主力と合 流) 小隊長のみ分離され作業二 三九大隊長となり入ッテ

隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中信通	隊小砲兵歩三第
少尉 大塚 重泰 曹長 伊藤 伍長 清水	少尉 谷山 一男	軍曹 北原 下尉 永田	
16			
溝 梨 秋			
花 敦			
八、一四 秋梨より敦化に移寄 戦斗せず損害なし 八、二一 敦化にて武器解除			
敦化空行場に敦谷 隆一 名			
九、上旬 作業大隊編入 (編入一三九隊隊主力と合流) 小隊長のみ分離され作業二 三九大隊長となり入ソす			